

# 館山塾報



〒101-0061

東京都千代田区三崎町二一八一九二葉第三ビル2F  
 (〇三) 三二六四一八六三八  
 (〇三) 三二六四一八六三六 館山塾  
<http://www.tateyamajuku.com/>

contents

夏期講習詳細……………	2 面	夏期不受講の諸君……………	3 面
前期終了試験……………	3 面	講師のページ……………	4 面

お知らせ

保護者面談(中学の部)・個人面談(高校の部)

★保護者面談(中学の部)・個人面談(高校の部)

保護者面談、個人面談を実施します。塾での学習の様子、夏休みの学習の指針について、各科目担当講師(中三及び高校生はチーフ)が個別にアドバイスします。中学生は提出された面談申込書をもとに日時を決定し、七月上旬にお知らせします。また高校生は、チーフと相談して面談日時(個人面談)を決定します。

★個人記録カードの提出について

個人記録カードをまだ提出していない諸君は、面談が受けられませんので、早急に提出して下さい。

★入試情報

高校・大学入試説明会に関するお知らせは、随時お知らせしています。左記の場所に置いてある資料は、自由に持ち帰って戴いて構わないものです。

2階 エレベーター前

★中三模擬試験のお知らせ

館山塾では、七月以降、中三生を対象に、模擬試験(進研・駿台)の受付をしています。模試の結果は、志望校決定の資料として利用できるほか、推薦入試の資料としても活用できます。詳細は、各回の締切前に教室で配布します。

★高三対象オプション講座について

夏期講習期間中、通常の講習以外に、高三生の希望者を対象とした講座を開設しています。各自の講習日程と組み合わせて、実力アップに是非活用して下さい。

期間 A	八月十八日(火)～二十一日(金)
期間 B	八月二十三日(日)～二十六日(水)

科目	担当	期間
現代文	三輪裕治	期間 B
古典	胡子俊英	期間 B
世界史	佐治 恵	期間 A
日本史	佐治 恵	期間 B
数 I A	熊倉幹男	期間 A
数 II B	熊倉幹男	期間 B
数 I A	松山秀行	期間 A
数 II B	松山秀行	期間 B

詳細は、同封の「オプション講座のお知らせ」(教室で生徒諸君にお渡ししているものと同じものです)をご覧ください。

7月～8月の予定

七月十七日(金)……………	平常講義終了
七月十八日(土)～二十日(月)……………	面談
七月二十三日(木)～二十六日(日)	夏期講習期間①
七月二十八日(火)～三十一日(金)	
八月二日(日)～五日(水)	夏期講習期間②
八月七日(金)～十日(月)	
八月十一日(火)～十七日(月)……………	休講期間
八月十八日(火)～二十一日(金)	夏期講習期間③
八月二十三日(日)～二十六日(水)	
八月二十七日(木)……………	
八月二十八日(金)……………	前期終了試験(高三)
八月三十一日(月)……………	平常講義開始

☆補講について

中学生及び高校一・二年生を対象に、講習以外の期間(期間③)に、補講期間を設けています。これは、夏期講習をより一層実り多いものにするための個別指導を行う期間です。詳細は、2頁をご覧ください。

夏期特別講習のお知らせ

夏期特別講習のお知らせ

一、期間

◎中学生 英・数・国 中三理社◎

※夏期特別講習の期間は、各科目、次の①、②のどちらか一方の八日間になります。

期間①：七月二十三日(木)～二十六日(日)

及び二十八日(火)～三十一日(金)

期間②：八月二日(日)～五日(水)

及び七日(金)～十日(月)

☆中三で理科・社会を選択する場合は、英・数・国とは別の期間で受講することになります。  
(例えば、英数国が期間①なら、理社は期間②)

※中三演習講座

期間③：八月十八日(火)～二十一日(金)

八月二十三日(日)～二十六日(水) Aクラス

※中学生特別個人指導

期間③：八月十八日(火)～二十一日(金)

又は八月二十三日(日)～二十六日(水)

☆八月二十七日(木)は、期間①と期間②の受講者及び講習不受講者を含む全員を対象に、前期終了試験が実施されます。

◎高校一年生◎

期間②：八月二日(日)～五日(水)

及び七日(金)～十日(月)

◎高校二年生◎ 英数国は期間①

期間①：七月二十三日(木)～二十六日(日)

及び二十八日(火)～三十一日(金)

期間②：八月二日(日)～五日(水)

及び七日(金)～十日(月)

期間③：八月十八日(火)～二十一日(金)

及び二十三日(日)～二十六日(水)

◎高校一・二年生特別個人指導◎

期間③：八月十八日(火)～二十一日(金)

及び二十三日(日)～二十六日(水)

☆八月二十七日(木)は、高一・高二(講習不受講者を含む)全員を対象に、前期終了試験が実施されます。

◎高校三年生◎

期間①：七月二十三日(木)～二十六日(日)

及び二十八日(火)～三十一日(金)

期間②：八月二日(日)～五日(水)

及び七日(金)～十日(月)

期間③：八月十八日(火)～二十一日(金)

及び二十三日(日)～二十六日(水)

☆八月二十八日(金)は、高三生(講習不受講者を含む)全員を対象に、前期終了試験が実施されます。科目数の多い諸君は一部を二十七日(木)に実施します。

二、クラス割

☆原則として平常のクラス編成のまま講習は行われますが、時間割の都合上、一部のクラスのみ、講習用クラスに編成されています。

各自のクラスは、教材とともに配布された講習クラス通知票を参照して下さい。

三、特別個人指導

☆特別個人指導は、夏期講習受講者を対象に、講習以外の期間に個別指導を行うものです。学力に余裕のある諸君には発展演習を、部活動等で欠席して理解不十分な諸君には補習を、と担当講師が塾生一人一人の状況に応じて、講習の成果をより一層確実なものにするためのシステムです。講師の側から強制的に呼び出す場合の他、塾生諸君が自主的に参加して質問や自習を行う時間帯としても活用できます。利用に際しては、予約が必要です。

対象 中学生～高校一・二年生の講習受講者

(不受講者は3頁の『九、講習不受講の諸君』をご覧ください)

科目 英語・数学・国語及び中三の理科・社会

期間 八月十八日(火)～二十一日(金)

及び八月二十三日(日)～二十六日(水)

☆特個の時間・教室等詳細は、講習中に書面で通知します。

☆特個は自主参加する場合も予約が必要です。予約に際しては各担当に直接申し出て下さい。

四、自習室

対象 全員

場所・時間 掲示でお知らせします。

## 五、講習用教材の配布

☆全学年、六月下旬から各教室で配布していただきます。十分に準備をした上、講習に臨むようにして下さい。

## 六、前期終了試験

—中学生及び高校一・二年生—

☆八月二十七日(木)に、中学生・高校一・二年生全クラスを対象に前期終了試験を実施します。

☆試験科目は、中学生は英・数・国の三科目(中三のみ理科・社会選択者は、五科目)、高校生は英・数・国の受講科目及び日本史・世界史・物理Ⅰです(日本史・世界史・物理Ⅰは高2の日程に合わせて試験を実施します)。

☆中学生で単科受講者は、受講科目のみの試験となります。

☆試験の時間等の詳細は、各自の受験票(八月中旬に郵送)でお知らせします。

☆試験は、既習全範囲の実力試験です。

—高校三年生—

☆八月二十八日(金)に前期終了試験を実施します(受講科目の多い諸君は一部二十七日

(木)に実施)。

☆試験科目は各自の受講科目です。物理総合、化学総合及び英語(英文解釈と英作文法)は二講座で一つの試験となります。

☆試験の時間等の詳細は、各自の受験票(後日配布)でお知らせします。

## 七、中三演習講座

☆中三生を対象に、講習とは別に、A・Bそれぞれのクラスに対応した演習講座が四日間、開設されます。

☆演習講座では、入試に即応した演習と解説が行われ、毎日、3科又は5科の成績表が渡されます。

☆各自の受講科目数に応じて、3科又は5科で実施されますので、特別な申し込みは必要ありません。

☆平常理社を受講していない場合でも、演習のみ理社の受講が可能です。受講を希望する場合は、事務までお申し出下さい。

## 八、後期クラス編成

☆前期が終了する八月の時点で、三月からの平常の成績及び総合試験の成績から、新たにクラスを編成します。なかでも、前期終了試験の成績が最も重視されます。

☆前期終了試験は、欠席するとクラス編成に支障をきたします。必ず受験して下さい。やむを得ぬ

事情で欠席する場合は、理由を明記した欠席届けを、事務まで提出して下さい。

☆欠席した場合は、必ず、振替受験日に受験することになります。

## 九、講習不受講の諸君

☆講習不受講であっても、既習全範囲の習熟度確認のため、前期終了試験を受験することになります。日時は、後日郵送される受験票で確認して下さい。

☆後期の講義にスムーズに参加するため、講習用の教材を購入して出来る限り自習して下さい。購入は、事務局まで申し出下さい。

☆講習期間の特別個人指導は講習受講者を対象としたものです。不受講者は参加できません。講習不受講の諸君で質問等がある場合は、講習期間に個別指導(有料)の講座を別途設けますので、希望される諸君はお問い合わせ下さい。

なお、個別指導の担当講師は、講習時間割の関係で、ご要望に添えない場合がありますので、予めご了承下さい。

## 十、夏期休講日について

☆八月十一日(火)～十七日(月)以外の休講日については、年間カレンダー・塾内掲示板・ホームページなどでご確認下さい。

## ▲▽ 英英辞典の勧め ▼▲

胡子俊英

中3の授業で関係代名詞の what を扱った時のことです。

what you need という表現で、「あなたに必要なもの」と「あなたが必要なもの」という二つの訳が出てきました。ここですかさず Y 君から質問が出ました。「客観的に必要なのですか、それとも本人が必要だと思っているのですか？」

大抵の生徒は、新しい単元の関係代名詞に注目していて、今さら need の意味の区別など気にも留めないのですが、日頃から論理的思考を研ぎ澄ましている Y 君には、①客観的に見てあなたに必要なこと、②あなたの主観でああなたが必要だと思っていること、のどちらを意味しているのかが気になったということです。Y 君のような探究心は、教室全体の雰囲気盛り上げる知的刺激となります。

こうした区別を知りたい場合は、英英辞典を利用することをお勧めします。例えば、『ロングマン英英辞典』で need を引くと、次のような説明があります。

**need**

**1** to have to have something or someone, because you cannot do something without them, or because you cannot continue or cannot exist without them [= require]:

**2** to feel that you want something very much:

**3 need to do something**

used when saying that someone should do something or has to do something: <http://www.ldoceonline.com/>

つまり、どちらの意味もあるということです。 **1**「なくてはならないこと」と **2**「あってほしいと思うこと」の両方の意味が載っています。

単語力がなかなかつかないと悩んでいる中高生諸君には、英英辞典を読むことをお勧めします。例えば、上の need の説明の **1** の最後に [= require] とありますが、ここで引き続き require を引けば、

**require**

**1** to need something:

**2** if you are required to do or have something, a law or rule says you must do it or have it

とあります。何だ、need と同じか、で止まってははいけません。ちゃんと **2** の説明も読んで下さい。「法律や規則でなくてはならないことと決まっている」というのですから、need よりも堅い表現だということがわかるでしょう。

こうやって、少しでも気になった単語を英英辞典で引き、更に関連した単語を調べていくことを日頃から続けていけば、語彙力はぐんぐんアップしていきます。英英辞典は、ネットで無料で利用できますし、最近の電子辞書にも大抵セットで付いています。読み物としても英英辞典を是非利用してみてください。

## ▲▽ 指導要領改訂におもう ▼▲

熊倉幹男

中学校は平成 24 年度から新指導要領に改訂されます。そのため平成 21 年度から移行期間に入り、先取りできるものは先行して指導することになりました。

今回の改訂で追加されるおもな単元は、

- ・中 1 数学 不等号
- ・中 2 数学 資料と統計
- ・中 1 理科 バネ・浮力・花の咲かない植物・断層
- ・中 3 理科 仕事・電解質・イオン・遺伝・日食月食、です。

「ゆとり教育」をテーマとした前回の改訂から、今回の改訂でほぼもとに戻ったと言えます。中央教育審議会の決定内容は、とりあえず納得のいくものでした。

前回の改訂ではいろいろな弊害が出たと思います。小中学生の学力低下はもとより、高等学校の理数系指導が混乱をきたし、ひいては理系離れ、または理数系科目の基礎学力のない理工系大学生を生んだのではないのでしょうか。中学の理科では上記の内容が削除されていましたが、高等学校の数学・物理・化学の内容・重量は従来とほぼ変わりませんから、知識が不十分なまま高校の授業を受け、脱落していく生徒がいても不思議はありません。たとえば、中学では二次方程式の解の公式は習わないことになっていますが、高校に行ったらそんなこと当然知っているものとして、判別式、解と係数の関係等、どんどん進んでいきますから、習っていない生徒はたまったものじゃありません。

で、中学生の皆さん、気をつけて下さいね。今は移行期間中ですから、これらの内容が確実に学習するという保証はないのですよ。高校に入ったら、「みんなこれはやっているからとばします。」と言われて、「ぼく、習ってません。」なんて言えませんから、学校で習わないから、入試に出ないからと言って、勉強しないでおくという訳にはいかないのですよ。

わかりましたか。だから、館山塾の数学の授業では、入試に出ない不等式を学習するのです。学校では使わないけど、解の公式の練習を死ぬほど(?)やらせるのです。理科の授業で教科書にも出てこない化学反応式を無理矢理覚えさせられるのです、イヤでも。その理由がわかりましたでしょうか。